

2023 年度高知資料ネットの活動

メール:h-obata@kochi-u.ac.jp

住所：高知市曙町2-15

高知大学小幡尚研究室



↑ Facebook

▼高知地域資料保存ネットワークとは？

市民発の資料ネット

高知県内の戦争資料の散逸を危惧した市民の呼び掛けで2016年に高知戦争資料保存ネットワークとして発足。県民の関心の高い戦争資料から始め、文化行政のケアが行き届かない民間所在資料の記録と公的機関への保存の働きかけを目的に活動を開始した。2021年に「高知地域資料保存ネットワーク」に改称。6年間で88件約4千点の資料を記録している。

冊子で資料保存を啓発

月1回の定例会のみで資料散逸を防ぐことは困難であり、資料保存の知識の普及をもう一つの目標として活動。『高知の戦争資料を残す・伝える』『高知の歴史資料を残す・伝える』を計2300部印刷し、県内の博物館・図書館で配布し、地域で資料保存に取り組んでもらうことを呼び掛けている。冊子はSNS上でダウンロードできる。



所蔵者と整理

月1回の定例会に相談のあった資料を所蔵者に持ち込んでもらい、一緒に資料整理を行い、資料の現地保存を支援する市民参加型の活動が特徴(図1)。

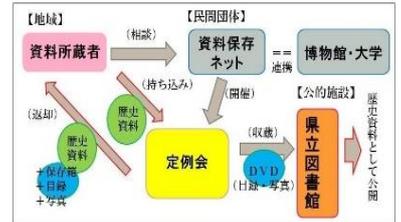


図1 資料ネットの活動モデル

研究者が資料の特徴を解説し、資料の価値や保存の重要性を理解してもらう。

所蔵者が担い手に

資料を持ち込んだ所蔵者が、活動を通して資料保存の重要性を認識し、資料ネットのメンバーとして活動するなど市民参加型の活動が、資料保存の担い手育成に繋がっている。所蔵資料を翻刻して活字化し、地域で資料調査や目録作成を行うメンバーもあり、資料公開や調査研究といった「普及」活動に発展している。

▼2023年度の活動

2023年度は、毎月1回計11回の定例会で、12件約600点の資料の記録・保存支援を行った。2023年3月には『高知県近現代資料集成Ⅱ—目録集②』、『土佐地域資料集成Ⅰ—土佐国幡多郡大津村 上岡家文書目録』、『土佐地域資料集成Ⅱ—堺事件・橋詰家文書資料集』を刊行。また、資料ネット初のシンポジウムも開催し、博物館の展示監修も行った。以下主要な活動について紹介する。

近現代資料12件を整理

明治～昭和期の資料を中心に県内から記録保存の相談があり、12件について撮影・保存処理を行い、所蔵者に返却した。特に、2018年整理の森田家文書では、地元紙と教育雑誌を追加調査し、大きな成果を得た。空襲で焼失した大正10年代の高知新聞が多数見つかり、大正期の県史を知る貴重資料となった。また、創造広場「アクトランド」と連携して、幕末の絵師・絵金の弟子筋に当たる永野家の絵画資料の整理も行う。さらに、戦後のブラジル移民関係の手紙の翻刻にも取りかかった。



(上) 定例会の様子 (下) 整理した資料



上岡家文書目録

目録集など3冊

目録集・資料集を計4冊刊行 → FBページでPDF公開

『高知県近現代資料集成』と『土佐地域資料集成』の2シリーズで、記録成果を活字化・公開中。戦争資料15件1074点の目録と主要資料の紹介をした『一目録集②』、浦庄屋の家に伝わった近世文書90点をまとめた『—上岡家文書目録』、堺事件で切腹を免れた橋詰愛平の家に伝わった文書群を整理した『—橋詰家資料集』を刊行した。満洲の歴史を語り継ぐ高知の会の『満蒙開拓青少年義勇軍・葛根廟事件 高知県関係資料集』の刊行も支援した。

目録刊行シンポジウム・資料展示

土佐清水市で11月に『—上岡家文書目録』の刊行を記念したシンポジウムを主催。県史編さん室、土佐清水市教育委員会、郷土史同好会にも共催してもらい、資料保存の関係者(資料ネット・高知城歴史博物館)と今後の活用の担い手(県史編さん室・土佐清水市教委)が登場し、記録から普及への展開や課題を考える内容となった。また、9～12月に紙の博物館・本川新郷土館で開かれた「本川神楽伝承500年記念展・山中家資料に見る本川の信仰世界」の展示を監修。昨年度整理の近世・近代の宗教文書「山中家資料」の目録作成、分析も進めた。



山中家資料展示 シンポジウム「土佐清水の歴史を編む」